

令和6年度 学校経営計画

府中市立四谷小学校

校長 島田 文江

1. 目指す学校・教師

22世紀を見ることになる児童の育成にあたり“令和の学び”を推進する。そのために全ての児童が人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長していくことを目指す。

めざす学校像は、児童の確かな学力を育てる学校、児童の心身のたくましさ育てる学校、児童の豊かな人間関係を醸成する学校である。**教師は**、目指す学校の実現に向け、心身共に健康で児童に愛情を注ぎ、児童の成長のために環境づくりに努める。また、希望と誇りをもち、教師同士が切磋琢磨し真摯に学ぶ。児童の日常の学びや育ちの場面に“発見・対話・決定・表現”という4つの視点を取り入れ、資質・能力を育成する。この教師集団に、地域・保護者を加えて“ファミリア四谷”として学校経営の具現化に努める。

ファミリア四谷の合言葉”よつや”の具現化

【教育目標】

学ぶ**よろこび**

体験を通じた**表現力**育成

基礎・基本の学力の定着

ふみ出す**つよさ**

目標に向けた**チャレンジ**

運動・生活習慣の定着

人への**やさしさ**

自他の生命や人権の尊重

自己調整能力の育成

【家庭での望ましい支援】

学びの**習慣化**

会話・読書の充実

家庭学習の習慣化

つよさを支える

早寝・早起き・朝ごはん等

1日1時間身体を動かす。

やさしさの育成

幼保から小への入口を重視

チャレンジを認め、励ます。

【経営努力3項目】

言語活動の充実

校内研究(国語)の推進

図書室活用の推進

デジタル図書・Web 博物館

安全安心の徹底

生活・交通・災害安全

知識習得と実践力の育成

地域、保護者、ボランティア連携

幼保小中の連携

小のカリキュラムを見直す。

多様な人との関りを重視

ヨツヤキッズセブン活用

2. 今年度の目標と方策

①学力・体力の向上

- 基礎的・基本的な知識と技能を習得
- 思考・判断・表現する能力を育成
- 運動に親しみ、心身の健康を増進
- 学習や生活の規範意識を育成
- 多様な関りを通した協働的な学びを推進
- SDGsやボランティアに対する意識を醸成

②教職員の資質向上

- 言語環境の整備と言語活動を充実
- 校内研究(国語)を通して授業を改善
- 人材育成のための OJT 研修を充実
- 分掌を超えた協働的な活動を推進
- チーム四谷の組織力を育成

③保護者・地域との連携

- 保護者・地域の思いや願いを尊重
- 基本的な学習・生活・運動の習慣を確立
- 探究的な体験や学習を充実
- ICTで情報を送受信し、相互の理解促進
- ボランティア活動の推進

④府中市教育委員会の教育施策との関連

市政施工 70 周年と本校創立 50 周年にあたり「未来へつなぐ府中2020レガシー」を充実させる。

- 社会を主体的・創造的によりよく生きる力を育成
- 学びの機会を保障する育ちのための支援を充実
- 個別最適で協働的な学びを充実
- 全ての児童の学びを保証する教育活動を充実
- “就学前後のかけはし期”と義務教育9年間をつないだ学びと育ちを充実

⑤働き方改革の推進

- 校務を精査し、内容に応じてデジタル化を推進する。
- イクボス宣言をし、“有休のトライ20クリア15”を目指す。
- 月の残業時間が 80 時間を超えないように、定期的な注意喚起を行う。
- 管幹4人が定期的にカリキュラムの見通しと振り返りをし、分掌主任に指導・助言を行う。
- 各分掌主任には、教職員の一人一人に明確な目的意識をもたせ、日常的に改善を図る。
- 新規採用者2名とメンター教員2名をペアにし、日常的な指導・助言ができる関係を作る。
- 教職員には、日々の研究と修養を推奨し、効果的な取組は全校で取り上げることを伝える。
- 教職員には、文化やスポーツの研修への主体的な参加を推奨しよりよい人間関係を築く。